

10月1日 1957年 五千円札(聖徳太子の肖像)が発行されました。

高度成長に伴って、高額紙幣の発行が必要になってきたのですね。この翌年1958年12月1日には一万円札も発行されています。まだ覚えておいでの方もおられると思いますが、五千円札、一万円札ともに聖徳太子の肖像が描かれていました。

当時の五千円は、現在でいえば、どのくらいの価値があったのかと調べてみれば、10~15倍 まあ だいたい50,000円~75,000円ぐらいの価値がありそうです。(当時、公務員の初任給が8,000円ぐらいだったようです)

この5千円札が新しくなったのは、1984年11月1日のことで、この時は新渡戸稲造が肖像に描かれました。2004年11月1日には、初めて女性が肖像に使われたという樋口一葉の五千円札が発行され、現在使われています。

おっちゃんが子供の頃には、小学校で子供貯金というのがあって、修学旅行のため貯金をしていました。1年生の頃には毎月100円ずつ貯金していましたが、高度成長のおかげか、500円になり1000円に増えていきました。

小学校3年の時だったか、アメリカに移民していた大叔父が帰国したことがあって、そのときお小遣いに10,000円をくれたことがありました。当時は1ドル360円の時代です。そのお金は、そっくり子供銀行に預金したのですが、このとき窓口の係をしていた上級生が「桁を間違えないように書かないとね!」と言って丁寧に記載してくれたのを今でも思い出します。

ここで クイズです!

ブラウンは1個100円ですが、この写真のようなお札を持ってきたお客様はブラウンを買えるでしょうか?

- 1 どちらも買える
- 2 どちらも買えない
- 3 下のお札だけ買える

ちなみに上のお札は1946年2月25日発行、支払停止は1956年6月5日

下のお札は1953年12月1日発行、支払停止は1974年8月1日

(支払停止と言うのは日銀から市中銀行への支払いに使うのをやめたという意味です)

クイズ正解者には、ブラウン1年分差し上げます!

と、言いたいところですが、おっちゃんにはそんな余裕はないので……

正解は、1番 どちらも買える です。

日本銀行のサイトを見れば「現在発行されていないが有効な銀行券」として明治18年発行の大黒様の描かれた1円札もあります。

しかし、こんなみたこともないお札を出されても、おっちゃん、当惑するだけです。是非やめて下さい(笑)

もしも妙齢のご婦人が、こんなお札でブラウンを買いに来たら、子育て幽霊の話を思い出してしまいそうです。

10月2日 望遠鏡の日

1608年オランダ、ミッテルブルフの眼鏡職人ハンス・リッペルスハイが2枚のレンズを組み合わせた望遠鏡の特許申請のための書類を提出しました。それを記念して望遠鏡の日とも言われています。

しかし、この望遠鏡はあまりにも構造が簡単だった上、すでにいろいろな人によって作られていたこともあって特許は認められませんでした。そんなに簡単な構造なのか？と調べてみれば100円ショップで買った虫眼鏡が3つあれば、月の模様や、暗い星でも見える程度の望遠鏡ができるようです。手作りの望遠鏡で観測などしてみれば、まるでガリレオにでもなった気分が味わえるかも……

と言うのも「天文学の父」と呼ばれるガリレオは、1608年リッペルスハイが望遠鏡の特許を申請したことを知り、翌年1609年5月1日には10倍の望遠鏡、その後20倍の望遠鏡を自作し、天体観測をしたと記されています。

木星の衛星を発見したり、金星が満ち欠けすることや、太陽の黒点を発見したりしています。それらのことから、ガリレオは地動説を確信しましたが、裁判の後「それでも地球は動いている」と言ったことは有名です。

では、望遠鏡が日本に伝わったのは、いつ頃でしょうか？

1613年イギリスの東インド会社、船隊司令官ジョン・セーリスが徳川家康に望遠鏡を贈ったのが最初だと言われています。

日本で最も優れた望遠鏡を作ったのは岩橋善兵衛(1756年～1811年)と言われています。大阪の貝塚に生まれ、眼鏡のレンズ磨きを生業としながら、オランダ製の望遠鏡を見て研究し1793年窺天鏡(きてんきょう)と名づけた望遠鏡を開発しました。

善兵衛の作った望遠鏡は、舶来品に勝るとも劣らぬもので、幕府の天文方に用いられたり日本地図を作成した伊能忠敬も愛用しています。学者から諸大名まで航海や軍事、天体観測などに広く使われました。

また、平天儀(へいてんぎ)という星座の早見盤に似た物を作りました。これは、五層に重ねた円盤からなり、それらをまわすことで、太陽、月の位相と出没、潮の干満、南中星座などを知ることができました。

10月3日 1906年 SOS が遭難信号として使われることが決りました。

ベルリンで開かれた万国無線通信会議において、モールス信号の3短点、3長点、3短点(トトト ツーツーツー トトト)が、遭難信号に採択されました。日本は1908年に批准しています。

イギリスでは、これ以前からCQDを遭難信号として使っていたので、1906年以降もしばらくはー・ー・ーー・ー・ーも、使われました。ですから1912年に遭難した、イギリスのタイタニック号は、最初にCQD、そのあとSOSの信号と両方を発信したそうです。

ちなみにSOSが最初に発信されたのは、1909年6月アズレス諸島沖で難破したスラボニア号です。

モールス信号による SOS は 1999 年で廃止され、現在は人工衛星が遭難信号を受信する EPIRB (イーパブ) が使われています。でも、一部の漁船などでは、従来の SOS が用いられています。

ところで、SOS と言えば、モールス信号を知らない人でも、助けて！という意味で使います。おっちゃんなんかは、SOS といえばピンクレディーの歌を思い出します。

「男はオオカミなのよ〜♪」

「ダメ ダメ あー ダメダメよ」って 一体何がダメなんだ〜〜〜

山などで遭難した場合でも、最近は多くは携帯電話で救助を求めることができますが、野外活動における遭難信号と言うものもあります。

1 分間に 6 回 (10 秒に 1 回) の割合でホイッスルを鳴らし、1 分間休む。
これを 1 周期とし、繰り返し行なう。

また、応答信号は、1 分間に 3 回 (20 秒間に 1 回) の割合でホイッスルを鳴らし、1 分間休む。これを 1 周期とし、繰り返し行なうことによって、遭難信号に応えたことになる。

夜間の場合は、ホイッスルの代わりに発光信号を送る。
(ブラウンのおっちゃんが言うのもおこがましい話ですが)

余談ですが、ブラウン (brown) をモールス信号で表すと
- - - - - . - - - - .
知ってても、役に立たないけどね。

10 月 4 日 1883 年 オリент急行が運行開始しました。

ベルギーの実業家ジョルジュ・ナゲルマケールスは、アメリカ旅行で乗った寝台列車にヒントを得て、ヨーロッパでも食堂車や寝台車を完備した長距離列車を運行させようと思い立ちました。

当時のヨーロッパは国ごとに鉄道が整備されてはいましたが、運行がばらばらで長距離を運行できる路線がありませんでした。そこでヨーロッパ各地の鉄道業者と交渉し、1872 年にワゴン・リ社を設立し、ベルリンのオーステンデーとドイツのベルリンを結ぶ運行を開始しました。

ワゴン・リ社は、自社で鉄道を持っているわけではなく、従来の列車より豪華な寝台列車の運行をする会社です。そして 1883 年 10 月 4 日パリからコンスタンティノープル (現イスタンブル) へ向かうオリент急行の営業を開始したのです。

アガサ・クリスティーによって「オリент急行殺人事件」が書かれたのは 1934 年のことです。中東での仕事を終えたポーロが、イスタンブル発カレー行きオリент急行の中で殺人事件に遭遇するお話で、クリスティーの代表作のひとつ

ですね。

第二次大戦後は航空機の普及や東西冷戦のため豪華な寝台列車の運行は衰退していき、2009年12月14日「本家オリエント急行」は廃止されました。

しかし、1970年以降に観光を目的としたオリエント急行の復刻版とも言うべき列車は今も人気を博しています。それが、以下の2社です。

ベニス・シンプロン・オリエント・エクスプレス(ベニス・シンプロン・オリエント急行(VSOE))

1982年に運行をはじめたロンドンとヴェネチアを結ぶ観光列車。

ノスタルジー・イスタンブール・オリエント急行(NIOE)

1977年から運行を始めたスイスの会社で1988年に来日したことを記憶している方もおられるかもしれません。

さて、ベニス・シンプロン・オリエント・エクスプレス急行でパリからイスタンブールまで旅行すると、どのくらいの費用が必要かお分かりでしょうか？

調べました～～～

パリ → ブダペスト → ブカレスト → イスタンブール(5泊6日)は年に1回だけの特別運行で、2013年は8月30日に予定されています。

費用はシングル・キャビン利用で、大人1名844,000円なり。スイート(2室コネクティング)・キャビンを2人で利用すると3,256,000円なり～～～です。ほっほ～～～

ちょっと高すぎて……じゃあ、パリ → ベニス(1泊2日)なら？

大人1名226,000円 ほっほ～～～

しかもドレスコードがあります。歴史的な装飾や雰囲気にもふさわしい格式高い優雅な服装が要求されるようです。またスタッフやガイドが常に待機していて迅速かつ丁寧に食事やベッドメイクなど一流のおもてなしをしてくれるようです。ほっほ～～～

叶いそうもない旅行ですが、サイトを見て、ため息をつくのは無料ですね～～～。ほっほ～～～

どなたか、旅行されましたら、おっちゃんに土産話を～～～

10月5日 達磨忌

達磨大師は5世紀後半、南インドで王子として生まれ、中国の崇山少林寺で9年間座禅を組んで悟りに達し禅宗を開きました。入寂したのは528年ごろと言われています。達磨大師が中国に到着した時梁の国の武帝(在位502-549)と交わした会話というのが『景德傳燈録』第三巻に残っています。

それによると武帝が「私は今までたくさん寺を造り僧を育てて来た。これはどのくらいの功德になっているだろうか」と聞く

と、達磨大師は「功德は何もない」と答え、「では仏教における聖なる真理は何か」と聞くと大師は「空っぽで何もない」と答え、更に武帝が「何もないというのなら、お前は何者だ」と聞くと「知らぬ」と答えたといひます。

仏教を厚く信仰していた梁の武帝は、天竺から来た高僧ということで喜んで迎えたのですが、このような受け答えをした達磨大師にガッカリしました。大師は、ここには縁がなかったと武帝の元を離れますが、あとで武帝は思い直し呼び戻そうとしましたができなかったと書かれています。

禪宗といえば、座禅と「そもさん！」「せっぱ！」の禪問答ぐらいしか分からないのですが、座禅(壁観)とは達磨の宗旨の「壁となって観ること」つまり「壁のように動ぜぬ境地で真理を観ずる禅」のことで書かれており、やっぱり禪問答のようによく理解できないのです。座禅をすれば分かるのかしらん？

ところで だるまといえば、赤色の張子で作られ、選挙で立候補した時に左目玉を入れ、当選すると右に目玉を書き入れるのがよく知られています。ほかにも何か祈願する時に使われる縁起物です。

だるまの起こりは、水戸光圀が帰依していた中国の僧、心越禪師が群馬県の高崎市近郊に少林山達磨寺を開き、一筆書きの達磨像を書いたそうです。1783年頃 9代目住職東嶽和尚が木型に作り、地元の農民達に教えたのが始まりだそうです。当時は何かと天災が多く、魔よけとして作られたようです。

この「高崎だるま」の全国シェアは8割(年間150万個)とされていますが、西日本唯一の産地といわれているのが「玉島だるま」です。まるっこい関東風の「目なしだるま」ですが、それもそのはず。戦後、小野一二さんが高崎で作り方を習ってきて始めたそうです。玉島には2軒の工房があるようです。

選挙や受験などの願掛けにも使われますが、最近は結婚式の寄せ書き用に白いだるまも人気なのだそうです。だるまには子孫繁栄を願う意味もあって結婚式にはふさわしいですね。

10月6日 トール・ヘイエルダールが生まれた日

トール・ヘイエルダールって誰？と思われる方もコンチキ号と聞けば、分かる方も多いかもしれません。おっちゃんも子供の頃読みました！「コンチキ号漂流記」

図書館の本は、どういうわけか全集ばかりで揃えられていて、その中に冒険物語のシリーズがありました。このコンチキと言うのが変で、読んだのを覚えています。でも、内容はあんまり覚えてなかったのですが、トール・ヘイエルダールが、1947年ペルーからイースター島への航海に挑戦した話でした。コンチキ号は、インカ時代の船を真似て作ったバルサ材の筏で、少しの食料のほかは、海で魚を釣って食べていたのです。そうだそうだ！嵐にあたり、鯨や海がめなど多くの海の生き物が出てきたり、危険な冒険ではあるけれど、どこか楽しくワクワクしたのもです。

そう言えば、このシリーズにどんな本があったか、急に思い出したのです。南極点を目指した、アムンゼンとスコットの話。「地球は青かった」と言ったガガーリンの話。「翼よ、あれがパリの灯だ」と言ったリンドバークの話。戦場カメラマンのロバート・キャパの話。そして「太平洋ひとりぼっち」の堀江健一の話。それから……自分でもリンドバークやロバート・キャパなんてよく思い出したもんだって感じです。

おっちゃんの子供の頃と言えば、こうした冒険物語や世界の不思議な話、例えばヒマラヤの雪男だとかネス湖のネッシーだとかツタンカーメンの呪いだとか、子どもたちの間で話題になることもしばしばでした。火星人がタコみたいだとか月にはウサギがすんでいるとか、本気で信じていました。地球のことも、宇宙のことも、まだまだ未知の部分が多かったのです。

でも月は石ばかりで、生物はいなかったのですよね。分かってしまえば、ちょっとガッカリだった。

宝島、ガリバー旅行記、15 少年漂流記、八十日間世界一周、海底 2 万里、火星年代記…冒険小説は楽しい！ そう思うおっちゃんは、心の漂流者？

10 月 7 日 1821 年 国学者、塙保己一が亡くなった日(旧暦 9 月 12 日)

塙保己一と言えば、盲目の国学者で、あの膨大な『群書類従』『続群書類従』を編纂した人として有名です。国中に散在する史料を蒐集し、20×20 文字の統一した版木を製作して、正・530 巻 666 冊 続 1150 巻 1185 冊を編纂しました。この400文字が現在の原稿用紙の基本仕様となっています。

盲目(検校)にもかかわらず、偉業を成し遂げたということで、ヘレンケラーは幼少の頃より「塙保己一を手本に」と教育されたと言われています。それほど有名な人だったのですね。

そして、もうひとつ気になる話は、保己一が編纂した『令義解』の中に、女医の前例が記載されていて、そのお陰で荻野吟子が医術開業試験を受けることができ、それに合格した彼女は日本初の女医になったという事でした。

医術開業試験は 1875 年(明治 8 年)より 1916 年(大正 5 年)まで行われていた、医師として開業するための国家試験で、荻野吟子が受験できたのは、1884 年(明治 17 年)9 月のことでした。彼女を受験させるために、多くの人が尽力し、国学者の井上頼圀が令義解から前例を探し出しました。

荻野吟子は女医の第一号と言われますが、楠本イネ(シーボルトの娘)なども、女医として紹介されることがあります。しかし 1884 年 イネは 57 歳で、この医術開業試験を受験することを諦めたと言います。医師だけでなく、いろいろな職業で女性の進出は厳しいものでしたね。

おっちゃんが想像するに、産婆は女性の仕事でしたから、女性で医療に関わる人がいなかったわけではなかったと思われます。きっと記録に残っていないだけ。韓国の歴史にも、女医がいたらしい記載もあり、それが基になって「大長今」のドラマになったと言われています。藤原緋沙の『藍染袴お匙帖』の中で桂ちづるが女医として活躍する話は痛快です。

先日、終わったNHKの連続ドラマ「梅ちゃん先生」は女医さんの話でした。現代では、女医の割合は 18.9%(2010 年)、おっちゃんは今後も女医、もちろん他の分野でも女性の活躍を期待します。

10 月 8 日 体育の日

1966 年から 1999 年までは 10 月 10 日 が体育の日でしたが 2000 年からはハッピーマンデー制度に伴い、10 月の第二月曜日が体育の日になりました。そもそも、1964 年の東京オリンピックが開催された日を記念して設定された日です。

ハッピーマンデー制度で、月曜日に移行した祝日は

成人の日(1月15日【1948～1999年】→1月の第2月曜日 2000年より)
海の日(7月20日【1996～2002年】→7月の第3月曜日 2003年より)
敬老の日(9月15日【1966～2002年】→9月の第3月曜日 2003年より)
体育の日(10月10日【1966～1999年】→10月の第2月曜日 2000年より)

では、移行しなかった祝日の差は?と考えると

元日(1月1日 旧四方節 1948年～)
建国記念の日(2月11日 旧紀元節 1967年～)
春分の日(春分日(3月20日～3月21日) 旧春季皇霊祭 1948年～)
昭和の日(4月29日 昭和天皇の誕生日(先帝祭) 2007年～)
憲法記念日(5月3日 日本国憲法施行の日 1948年～)
みどりの日(5月4日 2007年～)
こどもの日(5月5日 端午の節句 1948年～)
秋分の日(秋分日(9月22日～9月23日) 旧秋季皇霊祭 1948年～)
文化の日(11月3日 旧明治節(明治天皇の誕生日、旧天長節)、日本国憲法公布の日 1948年～)
勤労感謝の日(11月23日 旧新嘗祭 1948年～)
天皇誕生日(12月23日 今上天皇の誕生日(旧天長節) 1989年～)

お気づきでしょうか?

ハッピーマンデー制度で移行したのは、新憲法の元で制定された祝日ばかりです。旧憲法下で制定された皇室関係の祝祭日は、そのまま残っています。大型連休はそのままですけどね。

よく、定休日などの表記に、祝祭日と書かれていますが、1948年7月20日、「国民の祝日に関する法律」(祝日法)に定められているのは、祭日ではなく祝日。

祭日と言うのは、明治時代に定められた「年中祭日祝日ノ休暇日ヲ定ム」(明治6年太政官布告第344号、1873年10月14日施行)によるものです。皇室の祭祀を元に、国民全体の休日としたもののことを指します。今に休日として残っているのは、春季皇霊祭・秋季皇霊祭・新嘗祭です。

天皇は象徴と言われながらも、皇室の行事は私たちの暮らしに何かしら影響があるようです。

10月9日 1885年(明治18年)日本がメートル条約に加入しました。

メートル条約は、はじめ17か国により1875年5月20日にパリで批准され、翌1月1日から施行されました。日本にも条約加入の勧誘がありましたが、このときには加盟を見送りました。明治8年、日本の近代化はまだまだこれからという段階で、とてもそこまで手が回らないという状況だったのかもしれませんが。

その後、新しい原器を作製するのをきっかけに、日本も加盟を決め、1885年10月9日に手続きを終えました。

しかし、日本で長く使われていた尺貫法を一朝一夕に変えることは難しく、完全実施が実現したのは、1966年4月1日のことでした。特に土地や建物の表記は、長い間尺貫法が用いられており、今でも坪、間、町(反)は、耳にしますし、お米は1合、1升の方が、馴染み深いかもしれません。

1790年世界中のさまざまな長さの単位を統一することをタレーラン＝ペリゴール(フランス)が提案しました。何を基準にするか3つの提案がありましたが、その中からフランスの科学アカデミーが地球の北極点から赤道までの子午線弧長の1000万分の1を1メートルとすることを決めました。また、水、1立方デシメートルの質量を1キログラムと決めました。

ところで、アメリカはメートル条約を1875年に批准しているにもかかわらず一般に普及しておらず、相変わらずヤード・ポンド法が主流です。他にリビアとミャンマーが、ヤード・ポンド法の使用を禁止していませんが、最近ではメートル法が主流になりつつあります。

とは言いながらも、世界的に影響力の大きいアメリカが、ヤード・ポンド法を使うので、各国とも航空や宇宙分野など特例を認めざるを得ないようです。日本の特例にも、輸出用の計量器、航空機の運航に関する取引・証明、自衛隊が武器の一部として使用する計量器などがあります。

10月10日 1964年東京オリンピックの開会式が行なわれました。

東京オリンピックの開会式が10月10日土曜日、国立霞ヶ丘陸上競技場で行われました。式典は午後2時より始まり、オリンピック・カンパノロジー、昭和天皇の着席、君が代斉唱、その後に選手団の入場行進が行われました。

昭和天皇により「第18回近代オリンピックアードを祝い、ここにオリンピック東京大会の開会を宣言します」と開会が宣言されました。

日本選手団が入場してくると、アナウンサーが、「栄光を胸に・・・厳しい練習に耐え抜き、若人が胸を張って・・・開会までは、真に長く本当に険しい・・・」と戦後の復興の厳しさを精一杯表現しました。

最近の開会式といえば、華やかなアトラクションで盛り上がりますが、このときの開会式で、めぼしいセレモニーといえば、風船を飛ばし、火炎太鼓の演奏があり、鳩の放鳥、ブルーインパルスが五色のスモークで五輪マークを描いたぐらいです。

だからと言って、見るべきものがないのかといえば、決してそうではありません。

スポーツの祭典に相応しい、整然とした入場行進の美しさ！筆舌に尽くしがたい。選手一人ひとりが、自信と誇りをもち、晴がましい表情が眩しいばかりです。まさに、感動的なのです。

オープニングセレモニーがエンターテイメント化したのは、一体いつからなのでしょう？東京以降のオリンピックの開会式をHNKが何分放送したかを調べてみました。

東京 147分 メキシコ 130分 ミュンヘン 145分 モントリオール 145分 モスクワ 0分 ロサンゼルス 225分 ソウル 220分 バルセロナ 212分 アトランタ 255分 シドニー 270分 アテネ 210分 北京 255分 ロンドン 260分

これだけで、比較するのはあまりにも無謀ではありますが、ロサンゼルスあたりから、セレモニーが派手になってきたのではないかと推測されます。ロサンゼルス大会といえば、人間ロケット「ロケットマン」が出てきて度肝を抜かれたのでしたね。ソウル大会でも、テコンドーや伝統的な演舞が行なわれています。北京大会の、まあ次から次へ大勢の人が出てくる出てくる、ビックリしましたね。ポール・マッカートニーの歌も良かったのですが・・・。

時代は変わったのですね。もう昔に戻ることはないでしょう。

戦慄を覚えるような緊張感と荘厳な式典は、もう時代遅れの何ものでもないでしょう。少し寂しい気もします。

10月11日 「リンゴの唄」の日

1945(昭和20)年、戦後初めて制作・公開された映画『そよかぜ』が封切られました。(10日に先行公開された映画館もあったそうです)主演の並木路子が歌う挿入歌「リンゴの唄」は戦後を象徴する大ヒットとなりました。

「そよかぜ」はGHQの検閲を通った第1号映画です。教育・宗教など文化政策を担当していたのは、GHQの中の民間情報教育局(Civil Information and Educational Section)でした。その方針として、日本古来の歌舞伎や浪曲などは封建国粹主義的と弾圧し、戦時中は禁止されていた英米の軽音楽やジャズなどの普及を勧めていました。

この映画は、まだ戦争中に企画されていたものですが、終戦後あたためて公開できるように構想を練り直されたものです。空襲を恐れて暗い気持ちになっていた人々を明るくしようと考えられていたものを、敗戦で意気消沈している人々に元気を与えようとした目的は同じだったようです。

並木路子演じる少女が歌手としてデビューするスター誕生物語なのですが、当時の映画らしく(北朝鮮や中国などでありがちな)ちょっと社会主義的な内容なのではないかと想像します。共演者に世紀の二枚目と言われた上原謙(加山雄三の父)や佐野周二(関口宏の父)の名前があります。あれ？山下徹大や関口知宏のおじいさんと言った方が分かるのかな？

「リンゴの唄」♪赤いりんごに くちびる寄せて～～♪ は、今でもドラマやドキュメンタリーの戦後シーンには必ずと言っていいほど使われる曲になりました。ですから若い人でも耳にしたことがあるでしょう。また阪神大震災や東北大震災のときにも人々を励ます唄として多くの人が歌いました。日本人の心の歌になっていますね。

当時リンゴは、貴重品で相当高価なものでしたから、1945年12月に行なわれたラジオ公開番組でリンゴを配ったら奪い合いの大騒動が起こったそうです。

おっちゃんが子供の頃にリンゴといえば、木箱に入っていてクッション材の代わりに籾殻が使われていました。くじ引きをするように籾殻の中からリンゴを取り出す時はワクワクしたものです。「まだ、残ってないかな？」と箱の中をグルグルかき回したりしてね。

甘酸っぱいリンゴの味といっしょに子供の頃を思い出しました。

今日はリンゴカスタードがあります。

10月12日 1974年 読売ジャイアンツの長嶋茂雄が現役引退を表明しました。

長嶋茂雄といえば昭和40～48年までプロ野球日本シリーズを制覇し、ジャイアンツV9時代を王貞治とともに支えた名選手です。また監督になってからもジャイアンツを5度のリーグ優勝(そのうち2度は日本1)に導いています。

と言うか、長嶋について、あえて説明する必要もない気がします。選手としても活躍しましたが、多くの話題を振りまき、野球ファンだけでなく国民的な人気者でした。「ミスタージャイアンツ」「ミスタープロ野球」単に「ミスター」と言っても長嶋のことです。

10月14日の引退セレモニーのスピーチでは「わが巨人軍は永久に不滅です」という言葉を残し、時代を象徴する名言となりました。

ちなみに 1936年2月20日生まれ、プロ野球初出場は1958年4月5日でした。監督としては1972年～1980年、1993年～2001年を務めています。

長嶋の名言(迷言)は枚挙にいとまがありませんが、

「デビュー開幕戦でも4連続三振。監督としても最初は最下位。あとはよくなるばかりだと思っしかなかった」

「努力は人が見てないところであるものだ。努力を積み重ねると人に見えるほどの結果がでる」

「ショービジネスとしてね、見せる一つの商売からいきましてね、同じ負けでも全くない負け方であったというイメージを持って、ファンに家路についてほしい」

スーパースターだからこそ言える、そして凡人の心に響く言葉です。

朗らかで豪放磊落な人柄のように思われるミスターですが、実は極めて真面目な努力家だと言われています。「うーん」「ええ」「いわゆる」「ひとつの」などが口癖のように出て、よく考えながらインタビューを受けていたのも、失言して人を傷つけたり誤解を生んではいけないとの配慮からだったと言います。今の政治家にも見習って欲しいものですね。

10月13日 さつまいもの日

埼玉県川越市のサツマイモ愛好家のグループ「川越いも友の会」が制定しました。江戸時代、さつまいもは「栗より(九里四里)うまい十三里」と言われていたことと、十月がさつまいもの旬ということで、10月13日を「さつまいもの日」にしたそうです。

西日本では、あまり知られていないかもしれませんが、川越といえば「サツマイモ」だそうです。

さつまいもの生産地と言えば鹿児島県、茨城県、千葉県、宮崎県、徳島県が全国のトップ5。この5県で全国の8割、とりわけ鹿児島県は全国の4割を占めるそうです。やっぱり「サツマ」ですよ。

じゃあ、なんで埼玉？

埼玉とさつまいもの歴史を調べてみれば、埼玉県内のサツマイモ栽培の始まりは所沢市の南永井で、さつまいも始作地の碑」があります。1751年に名主・吉田弥右衛門が、長男・弥左衛門に上総国志井津村(現在の千葉県市原市)まで、芋の種を買いに行かせ、栽培を始めたのが始まりだと言われています。

武蔵野の台地がサツマイモに最適であったことから、おいしいサツマイモが採れたことで、「天保時代名物競」には”サツマイモといえば川越”と記されたのです。

そして、幕末から明治期には川越の赤沢仁兵衛がさつまいもの栽培方法を研究し、実験を重ね 1910年(明治43年)に「赤沢仁兵衛実験甘藷栽培法」を出版しました。その方法を普及させたことで収穫量が増加しました。赤沢仁兵衛は「川越の甘藷先生」とも呼ばれ、道徳の教科書にも載ったそうです。

戦後、サツマイモの生産量が減り、いもの街・川越の面影がなくなった状況を復興させた「川越いも友の会」が、川越さつまいも地蔵が祀られている妙善寺で毎年10月13日に「いも供養」を行っています。

現在の生産量はそれほどではありませんが、サツマイモを使った様々な”芋菓子”が生み出され、今なお、サツマイモのまちとして観光客が絶えません。以前川越に行ったとき、土産物と言えば、さつまいもを使ったお菓子や、干し芋が多かったのを思い出します。狭山茶と一緒にいただく川越のお土産ですね。

スイートポテト入りのブラウンもあります。

登場は しばらくお待ちください……

10月14日 鉄道の日

1872年10月14日(旧暦の9月12日)新橋と横浜間に鉄道が開通したのを記念して、1922年(大正11年)に制定されました。当時は「鉄道記念日」でしたが1994年より「鉄道の日」となりました。

汽笛一声新橋を はや我汽車は離れたり
愛宕の山に入り残る 月を旅路の友として

鉄道唱歌の通りに最初の列車には天皇陛下をお乗せして、号砲と万歳の声がどよめく中、汽笛を鳴らし、横浜に向けて列車が発しました。距離は29キロ、時速は32.8km/hで53分かかったそうです。当時は1日9往復 運賃は上等が1円12銭5厘、中等が75銭、下等が37銭5厘で下等の料金でお米が10kg買える金額だったと言われますから相当高価なものであったことは、想像できます。

ちなみに29キロは歩けば10時間かかっていたので、元老の大久保利通は、「まさに百聞は一見に如かず。愉快に耐えず。鉄道の発展なくして、国の繁栄はありえない」と日記に書いたのだそうです。それまで鉄道建設には慎重な立場を取っていた大久保が一気に賛成派に鞍替えしたのだそうです。

その後、日本の鉄道網は、30年で7000キロ、100年で2万キロを超えるほどに発達しました。小さな国土でありながら安全で正確な鉄道輸送は、日本が世界に誇れるものだと思います。

歴史家のアーノルド・トインビーは、「人類の歴史の奇跡の一つは、日本の明治以降の近代化である」と言っていますが、この明治のすさまじいパワーには、おっちゃんもビックリです。

10月15日 1963年 朴正熙(パク・チョンヒ)が韓国大統領に就任しました。

朴正熙は第5～9代(1963年10月15日～1979年10月26日)の大統領を務め、軍事独裁・権威主義体制を築きました。また日韓基本条約の締結を行い日本から経済援助を受けて、韓国の秩序と経済発展をもたらしました。

今年の大統領選挙に出馬予定のセヌリ党、非常対策委員長の朴槿恵は長女にあたります。

さて、おっちゃんが、なぜ朴正熙に興味を持ったかといえば、理由は2つあります。

まず、ひとつは韓国映画「大統領の理髪師」を見て面白かったという事です。この映画に出てくる大統領は朴正熙がモデルだと言われ、映画の時代背景は1960年～70年代、軍国主義で日常生活にいろいろ理不尽なことが起きる暗い時代であるにもかかわらず、家族愛や人々のたくましい暮らしぶりがコミカルに描かれていました。

主演のソン・ガンホは好きな俳優の一人なのですが、当時の韓国がどんな国だったか興味深く、しかも、非常に驚きながら見たのでした。

韓国は世界でも数少ない南北分断国家で、いまだに緊張感がある国です。そういう国の情勢が映画でもたくさん描かれています。JSA、シルミド、ブラザー・フット、シュリなど、どれも日本人には理解しがたい背景があると思います。

もうひとつの理由が朴正熙は親日派であったということです。貧しい家に生まれた朴正熙は、日本人が統治していたお陰で義務教育を受けることができ、成績が良かったので日本人教師の推薦で師範学校に進学することができました。また上級の学校にも進むことができ、主席で東京の士官学校を卒業した時には、日本人も多くいた中、卒業生代表で答辞を読むことが出来たそうです。そのことを後に「日本の教育は割りと公平で、日本の政治も感情的に非難するつもりはない」と言っています。

もちろん朴正熙はある意味で、よい教師や境遇に恵まれていたと言えるかもしれませんが、統治時代の日本を全て否定するものでもないと言うのは、ちょっと嬉しいではないですか。

朴正熙は暗殺されました。独裁者で政治的には手段を選ばないところがありましたが、私人としては、清廉で、今でも人気のある大統領だそうです。アメリカの雑誌に「20世紀最も影響力のあったアジアの20人」に選ばれています。

10月16日 ポスデー

1958年(昭和33年)10月、アメリカのパトリシア・ベイ・ハロキスがポスデーの設立を思いつき、アメリカ商工会議所に登録をしました。以降アメリカではボスを昼食に招待したりプレゼントを贈ったりして日頃の労をねぎらうそうです。

パトリアは、会社を経営していた彼女の父親が部下との関係がしっくり行かないことを思い悩んでいたことに解決の方法はないものかと考えた結果だったそうです。

もう 50 年以上前からアメリカでは広まっていた日なのに、日本ではあまり聞かないのは、どうしてなのでしょう？

ん！ 名前がよくない？

「上司の日」かたいな・・・

「親方の日」職人さんみたいですね・・・

「親分の日」なんじゃそりゃ・・・

「組長の日」違うでしょ！

日本では、昔から上司との飲み会は「無礼講」と言って、人間関係を作ってきましたから、ボスデーは必要なかったのかもしれませんが。最近では、日本でも 4 月最終週の水曜日、セクレタリーデーのお返しとして次第に知られるようになっていくそうです。人間関係のありようも、だんだん変化しているんですね。

10 月 17 日 貯蓄の日

貯金は多い方が安心だけど、なかなか貯まらないもの・・・しかも・・・？

1952 年(昭和 27 年)日本銀行 貯蓄増強中央委員会の提唱で制定されました。貯蓄に対する関心を深め、貯蓄の増進を図ることを目的としています。10 月 17 日は天皇(伊勢神宮)がその年の新穀を神様に奉納する神嘗祭にあたり、貯蓄の日も勤労の実りを大切にとの意味合いから、この日が貯蓄の日となりました。農耕民族にとってお米はお金と同じと考えられたのです。

まあ、「無駄遣いせず貯金しましょう」と推奨したのですが、国民の貯金は国や企業の融資に使われるとあって、国を挙げて貯蓄の日を謳ったものと思われず。

昭和 27 年の世相と言えば、時の総理大臣は吉田茂、サンフランシスコ講和条約が発効し、GHQ が廃止され日本が主権を取り戻しました。メーデーの日にデモ隊と警察隊が衝突し、多くの負傷者が出ました。美空ひばりや江利チエミが活躍し始めます。女湯が空になると言われたラジオ劇「君の名は」の放送が始まりました。東京国立近代美術館が日本初の国立美術館として開館しました。

朝鮮戦争による特需景気で、日本の経済力も向上し、人々の暮らしも安定し、どんどんよくなっていく、そんな時期だったようです。

そういえば、祖母がタンスの奥から「戦時国債」を出してきて驚いたことがあります。

大日本帝国政府 大東亜戦争国庫債券 壹百円 と書いてあります。発行は 昭和 17 年 払い戻しの期日が 昭和 35 年となっています。

昭和 13 年に日本勧業銀行から当時の大蔵大臣 賀屋興宣が国民に向けて書いた小冊子『貯蓄報国の途』には、日中

戦争について、「不退転の決意を固くして長期戦に備へねばならない秋である」と見解を述べ、貯蓄を行い公債を買うことは「一身一家の経済のみならず」、インフレを防ぎ軍資を提供するという意味において、「国家のためにも絶対必要」と説いています。貯蓄はお国のため……

ところで、バブルの時代にも貯金をすすめるためなのか、貯金箱が粗品としてよく配られていたように思います。定期預金も利率がよかったけれど(今と比べれば)それより、ファンドとか不動産投資、金投資などの利殖がとても魅力的に思えたものでした。所詮 バブルだったんですけどね……。

年金もあてにならないし、戦時国債やバブルみたいにならないように、コツコツ貯蓄するしかないのでしょうかね？ 自分のために……。

10月18日 蟋蟀戸にあり(七二候)

蟋蟀(シツシュツ)は、キリギリスつまりコオロギのことです。たとえば、？とお思いかもしれませんが、昔はコオロギのことをキリギリスと呼んでいました。そういえば、枕草子の41段 虫は 鈴虫 ひぐらし 蝶 松虫 きりぎりす はたおり われから ひをむし 螢 ……のところで、鈴虫はマツムシ 松虫はスズムシ きりぎりすはコオロギ はたおりはキリギリスと習いました。しかし、万葉集にはコホロギと呼んでおり、平安時代になってからキリギリスになったとか……むむむ

コオロギが戸口にいる頃ということでしょうか。それまでは庭で鳴いていたコオロギが、寒くなって家の中にやってきて戸口のところにいるよ、というなんとも風情のある七二候です。昔の家は土間が広くて、家の中には囲炉裏などあって、そりゃコオロギとて少しでも暖かい所がいいに決まっています。

キリギリスとコオロギが逆に呼ばれていたのが、この虫がどのように違うのか調べてみました。コオロギは黒っぽくてキリギリスは緑っぽくバッタみたいなんじゃないの？と思っていましたが、それぞれに、いろいろな種類があって、キリギリスにも黒っぽいものもあるのだとか。他にも、コオロギは田畑や民家に近いところにいる、キリギリスは草原や河原にいるとか、昼間も鳴くのがキリギリスとか勝手に思っていました。

しかし決定的なのがコオロギは右利き、キリギリスは左利きだと言うのです。

ええ？

コオロギは右側の羽の裏に櫛の歯のようなギザギザがあります。左側の羽には、とがった撥のような部分があります。この二つをこすり合わせて音を出しているのですが、右の羽が上にくるので右利き、キリギリスは反対になるのだそうです。

江戸時代から昭和に始め頃まで、虫売りは夏の風物詩でスズムシやマツムシ、キリギリスなどを売っていたそうです。カブトムシや蛍など鳴かない虫も扱いました。秋の虫の声に耳を傾け、季節を感じていた日本人の風情や情緒……いいものです。

あれ松虫が 鳴いている ちんちろ ちんちろ ちんちろりん

あれ鈴虫も 鳴き出した りんりんりんりん りいんりん

秋の夜長を 鳴き通す ああおもしろい 虫のこえ

10月19日 バーゲンの日

この時季外れに、バーゲンの日とは？！

いろいろなサイトに「10月19日はバーゲンの日」でその由来を1895年(明治28年)東京駅上の大丸呉服店が冬物の大売出しを開催したのを日本で最初のバーゲンセールだったとしています。大丸呉服店は、今の丸の内ですが、大丸の歴史のサイトをみても、バーゲンセールの記載は見当たりません。

大丸は京都で興った呉服店で、百貨店としては、東の三越、西の大丸と言われていました。

大丸も三越も元々呉服屋でしたので、その売り方は「座売り」といって、大きな畳敷きの部屋に番頭さんが何人も座っていてお客さんは、なじみの番頭さんに見繕ってもらったいくつかの商品の中から選んで買って帰るというものでした。それを今のような陳列販売にしたのは1900年に三越が最初でした。その時に女性の店員を雇用したそうです。

また、1914年に日本初のエレベーターとエスカレーターを設置したのも三越。でも最初にエレベーターガールを置いたのは、1929年松坂屋が最初ようです。当時の新聞は、「昇降機ガールが日本にも出来た」「婦人職業の新進出」と報道しています。

老舗の百貨店の歴史をいくつか比べながら見ていると、日本初とか最新のという言葉がたくさん使われており、百貨店が時代の先端を作っていた花形の業界であったことを伺わせます。日本初のショーウィンドウの採用とかパートタイムの採用だとかDMを出したとか……

また三越で記載されている中に、1923年(大正12年)8月5日に初めてバーゲンセールが行なわれたとあります。この時のバーゲン品は食料品、シャツ、靴下、を普段の価格より2割から3割値引きして販売したようです。恐らく大丸の大売出しと三越のバーゲンセールでは、ちょっと内容に差があって、私たちが思っているバーゲンセールは1923年の三越のものだろうと思います。

バーゲンセールと言えば、今では夏物は6月～7月 冬物は新年早々と言うのが当たり前になっています。その時期も以前に比べれば随分早まっている気がします。

おっちゃんの子供の頃のデパートと言えば、7階の食堂でお子様ランチを食べるのが、憧れでもあったし楽しみでもあったんですよ。母がお粧しして家族そろって休日にデパートに行くなんて、すごく贅沢なことだったんですけどね。

10月20日 石津謙介の生まれた日

「メンズファッションの神様」とか「アイビーの教祖」「TPOの提唱者」と言われる石津謙介は1911年10月20日岡山市北区天瀬に生まれました。旧制第一岡山中学、明治大学を卒業し、実家の紙問屋を継ぎましたが、ファッションに造詣が深く1939年、家族とともに天津に移住し、服飾デザイナー兼洋服の製造販売に携わりました。

戦後1954年「有限会社ヴァンチャケット」を設立し、アイビーを紹介しました。

1956年 には『男の服飾』第6号が「アイビー・ルック」の特集を組んだことで「アイビー」は流行語となり、VANのブランドとアイビーは60年代を象徴するファッションとなりました。

ボタンダウンのシャツに三つボタンジャケット、スリムなコットンパンツにコインローファー、七三分けのショートヘアはスタイリング剤で清楚に決めるのがポイント！かつては高倉健や菅原文太、仲代達也もアイビーのモデルを務めました。『ALWAYS 三丁目の夕日'64』では森山未来が、コテコテのアイビースタイルを披露していました。

そうした、人気ブランドのデザイナーとなった石津は東京オリンピックの日本代表選手団の赤い公式ブレザーや国鉄、警視庁、日本航空、ヤマハなどの制服デザインも手がけました。

「時・場所・場合を考慮して」という意味でよく用いられる「TPO(Time、Place、Occasion)」や「カジュアル」、「Tシャツ」、「トレーナー」といったファッション用語を定着させたのも石津だと言われています。またVANの企業戦略から、「キャンペーン」「プレミアム」などの業界用語も生まれています。

1978年に「ヴァンジャケット」は倒産しましたが、その後もデザイナーとして衣服だけでなく住まいや食生活に渡って多くの提言をしました。アイビーの流行に関しては、必ずしも好意的な評価ばかりではありませんでしたが、ファッションやライフスタイルにこだわるのが、自己表現だと若者に植えつけたのは事実だろうと思います。

団塊の世代より少し上の年代の人で、年を取っているのにダンディーにおしゃれを決めている人を時々見かけます。もしかしたら石津のアイビーから入って、独自のライフスタイルを作り上げたナイスシルバー世代かもしれません。

石津は93歳で亡くなっていますが、寝たきりになっても、おしゃれを忘れず、パジャマを着ることを拒んだそうです。息を引き取った時には三宅一生のシャツを着ていたそうです。う〜ん、かっこいいかも。

10月21日 2010年ミャンマーの国旗が変わりました。

最近、何かと耳にすることの多いミャンマーですが、2010年11月に行なわれたミャンマーの総選挙により民主化へ政治体制が変わりました。今は西欧列強、中国、韓国、インドなど労働力や市場を求めて、多くの国や企業がミャンマーに注目しています。

ところで、新しいミャンマーの国旗は上から黄色、緑、赤に塗り分けられた三色旗の上に、大きな白星が描かれています。黄色は国民の団結、緑は平和と豊かな自然環境、赤は勇気と決断力を象徴し、白い大きな星はミャンマーが地理的・民族的に一体化することを意味しています。

ミャンマーには多くの民族があり、争いが絶えませんでした。また、それを利用してイギリスが統治していたので、民族間には深い遺恨が残っているようです。ですから軍事政権でなければ安定が保たれないと言われていました。

この三色旗を見て、ミャンマーをよく知る人は驚いたと言います。なぜならば、1943年から1945年までのビルマ国時代の国旗に似ているからです。ビルマ国は日本による傀儡政権とも言われていました。アウンサン率いる独立義勇軍が日本軍と主にイギリス支配のビルマに侵攻しヤンゴン(当時の首都)を攻略して、ビルマ国を建国しました。

ビルマ国の国旗は、上から黄色、緑、赤の三色旗の上にビルマ最後の王朝であるコンバウン朝(1752~1886)の徴であ

る孔雀を描いていました。また、この三色はミャンマーの中のシャン州の州旗にも似ており、新しい国旗の意図するものは、日本を意識したのか？シャン州に配慮したのか？仏教国であるミャンマーの僧侶への気遣いなのか、ミャンマー通の人は、いろいろ考えをめぐらしたようです。

新しい国旗のように、民族が仲良く団結し、平和で豊かな自然が保たれるように心から願います。

10月22日 京都 平安神宮の時代祭が行われます。

平安神宮の歴史は浅く、1895年(明治28年)3月15日に平安遷都1100年を記念して京都で開催された内国勸業博覧会の目玉として大内裏の一部が復元されました。博覧会の後、建物はそのままに桓武天皇を祀る神社としました。また1940年には孝明天皇も祭神に加えられています。

時代祭は、平安神宮のの大祭、建造物、神苑の保存のために市民により組織された平安講社が記念事業として始めたお祭です。ですから、時代祭が最初に行なわれたのは1895年(明治28年)の10月25日でした。その後、桓武天皇が平安京に入城したといわれる10月22日に行われるようになりました。

実際に、ご覧になった方もおられると思いますが、8つの時代、20の列で、それぞれに時代を再現した衣装や道具を身につけて行列します。総勢2000人ほどで、先頭から最後尾までは約2km程に及び、時間にすれば2時間強かかるようです。

維新の志士や戦国武将、平安時代の公家など有名人に扮装して歩く人もいます。

ところで、この2000人もの人をどのように集めるのかと思えば、もちろん平安講社の社中や地元の町内会、婦人会、本場の芸舞妓さんなどが参加するのですが、大学生のアルバイトも募集されます。京都の大学生で一定の条件を満たした人に限られるようですが、行列参加の日当は6700円。朝食と昼食は支給されるそうです。持参するもの、カットバン(わらじづれの時のために)・・・確かに必要だ～。

また、この日のアルバイトは行列参加以外に、パンフレットの販売というのもあって、1冊売れるたびに80円の収益になります。100冊売れると8000円プラス、ボーナス2000円という特典があります。一番売った人は360冊という記録もあるそうで、34800円の収入になったそうです。

ちなみにパンフレットは800円で平安神宮が1年かけて作ったという自信作で、それぞれの行列の衣装や時代背景、行列の順番などが詳しく載っています。、これを見ながら行列に行く有名な歴史上の人物を見れば一層楽しめるんだとか。

時代祭で、もしかするとパンフレットの押し売りに会うかもしれません。また、趣向を凝らしたパンフレット売りに出会うかもしれません。ただただ見学がしたいだけで、パンフレットを持って歩いている大学生かもしれません。そういう事情を知って時代祭に行くとは別な楽しみ方ができるかもしれませんね。

10月23日 1964年東京オリンピック女子バレーボールで日本がソ連を下し、金メダルを獲得しました。

日本は、11日アメリカ、12日ルーマニア、14日韓国、16日ポーランドを破り、決勝戦へ進みました。決勝戦の相手はソ

連で、10月23日午後7時37分、駒沢屋内球技場において試合が始まりました。試合は、第1セット、第2セットと変化球サーブと回転レシーブを武器に順調に連取していきました。第3セットも日本が優位に進めましたが、14対9のマッチポイントからソ連の粘りが続きました。最後はソ連のオーバーネットによる反則でストレートで勝ち(15対11、15対8、15対13)念願の金メダルを獲得しました。

このときの全日本チームは12名のうち10名が1961年の欧州遠征で22連勝した日紡貝塚女子バレーボールの選手で、監督は鬼の大松と言われた大松博文氏でした。この欧州遠征の頃から「東洋の魔女」と呼ばれていました。

女子バレーボールは東京オリンピックより正式種目になっており、日紡貝塚の選手たちは世界選手権後に引退を決めていたのですが、世間の慰留によってオリンピックに出場することになりました。そのために彼女たちは勤めを終えた後、午後3時から夜中の2時までの厳しい練習の毎日を過ごしたそうです。

大松監督は香川県綾歌郡宇多津町出身で、陸軍に召集され中隊指揮官として、中国・ビルマ・ラバウルを転戦し、最後にはビルマのインパール作戦に従軍しています。「白骨街道」と呼ばれたインパール作戦では大勢の兵士が帰らぬ人となったのです。若くして指揮官になった大松は、年配の兵士が指揮に従ってくれるためには、自分の身の回りのことはもちろん、馬の世話や危険な斥候も自ら率先して働くことでみんなの信頼を得るしかないと考えたそうです。

スパルタとか「根性」だけの精神論者と言われることもありましたが、元来、優しく情に厚い人であったようです。選手たちは誰もが大松監督を慕い、監督と結婚したかったと後日語っています。回転レシーブや変化球サーブを考案し、体の小さな日本人選手が欧米の選手と互角に戦えるように工夫も重ねたのです。

その後1960年～70年代には「スポ根」が流行します。「血と汗と泥にまみれて泣きながら全てを犠牲にして練習に打ち込み、ひたすら努力を続ければいつか必ず勝利をつかめる」というものです。今は、軍国主義の精神論に近く、人権を無視した考えとして批判されがちですが、敗戦によって焼け野原になった日本が「もはや戦後ではない」と言われるまでに復興したとき、人々はスポ根の主人公に自分たちを投影し、やればできると自信をつけていたのだらうと思います。

10月24日 比庵忌 1975年 清水比庵がなくなりました

清水比庵は1883年(明治16年)岡山県上房郡高梁町に生まれました。本名は清水秀。高梁中学校、第六高等学校を経て、1908年京都帝国大学法学部を卒業しました。地方裁判所、銀行、一般企業など勤めた後、1930年～39年まで日光町の町長を務めました。

町長を務める前から作歌活動を始めており、萩原朔太郎、岡本かの子、中河与一など親交がありました。また画家は川合玉堂、奥村土牛、小倉遊亀、酒井三良などと親交がありました。

おっちゃんも随分前に高梁を訪れた時に清水比庵を知り、その絵にも書にも歌にも魅せられたのです。比庵はただの書家ではなく能書家です。書における高度な技術と教養を持った専門家ということです。また歌人としては1966年に宮中歌会始の召人に選ばれています。

比庵のどこがいいのか、門外漢でうまく言い表せませんが、とにかくいいのです。好きなのです。そして、比庵は「今良寛」と呼ばれているのです。つまり、書にも絵にも歌にも、人柄が表れているのです。

比庵は言っています。

「人間は社会に奉仕しなければいかん。奉仕のできるような人間でなければいかんと主張している。その奉仕の一つとして顔の奉仕がある。人間はよい顔をしておれば、それが社会への奉仕になるという主張なのです。よい顔をしておる人が集まると、自然平和にもなる。それから和やかにもなる。それからまあ文化の発展をする。人間はそれで顔が良くなければ仕事も良くいかん。こういう結論になります」

つまり、ニコニコと穏やかな顔をすることが、社会に対する奉仕であり、そうでなければよい仕事もできないし、よい結果もついてこないという事です。

なるほど……絵や書や歌から伝わるのは、優しさ、穏やかさ、和やかさ、おおらかさなのですね。

高梁総合文化会館には清水比庵記念室があり、無料で見学することができます。

高梁と言うところはいいところですが、もちろん岡山や倉敷もいいところなのですが、田舎なのに品があるというか、文化の香りがするというか、折り目正しい清廉な感じのする町です。だから、おっちゃんは好きです。

10月25日 1911年(明治44年) 花森安治が生まれました。

花森安治といえば、「暮しの手帖」の創刊者として、よく知られています。「暮しの手帖」は、昭和23年(1948年)の3月に創刊されましたが、花森安治は編集はもちろん、執筆・デザインと雑誌づくりのすべてに関わっていました。特に表紙のイラストは創刊号より死ぬ直前の第2世紀52号1978年・早春(昭和53年2月1日発行)まで、全て手がけました。あの独特な花森の世界に心引かれた人は、少なくないと思います。

(翌53号の表紙は、「病気になったときに」と、とってあったものが使用されました)

花森が「暮しの手帖」に込めた思いは、彼自身の戦争への反省から、一人ひとりが暮らしを大切にすることで戦争のない平和な世の中にしたいということでした。と言うのも彼は、敗戦まで大政翼賛会の国策広告に携わっており、当時の代表的なキャッチコピー「欲しがりません 勝つまでは」は「国民決意標語」の募集の中から、彼自身が選んだものだったと言われています。

花森の決意の現れとも言えるのが1971年に著した「一銭五厘の旗」です。戦争中、一銭五厘のハガキで召集され国のためといわれながら命を落として行った人々がいたことを訴え、暮しを守るためには、企業や政府さえ倒してやるぞと言っています。

「暮しの手帖」には、企業広告は掲載されていません。消費者のためにどの製品が役に立つかを調べた商品テストを実施しています。それは、どのような商品を作って欲しいかという製造メーカーに対する要望でもあります。花森は「暮しは遊びではない」とよく言っていたそうですが、この遊びと言うのは、真剣に生きる日常生活と対峙するとの考えからだと思えます。遊びを余裕や創造的なものとするならば、花森の考え方には賛同できないでしょうが、彼が戦争に反対し、公害に反対し、安全で安心な暮らしを真剣に考えていたことを思えば「遊びではない」という言葉は納得できる気がします。

花森は、ジャーナリスト、グラフィックデザイナー、コピーライター、イラストレーター、編集者など多くの顔を持ちますが、彼自身は自分のことを「宣伝人」と考えていたようです。宣伝は、まず自分自身が動かされること、素人に徹すること、一人

の人に語りかけることをモットーにしていました。これは人に物を伝える基本のように思います。

母が読んでいた「暮しの手帖」。子供の頃は、中のお話を読み聞かせてもらうのが好きで、藤城清治の挿絵とともに、とてもよく覚えています。花森が亡くなった時、母は「これからの暮しの手帖どうなるのだろう」と心配していた意味がやっと分かりました。

10月26日 1881年アリゾナ州トゥームストーンで O.K.牧場の決闘がありました。

OK 牧場と言ってガッツ石松を思い浮かべて、「あ、明日はこれ！」と決めたものの、OK 牧場の決闘って何？たしか西部劇の映画があったはず……

保安官ワイアット・アープらとカウボーイのクラントン兄弟らの銃撃戦で実際に起こった話です。牧場と言っても、私たちが想像するような草原に牛や羊がいる場所ではなく、貸し馬や馬を預かったりするこの時代特有の商売所だったようです。まあ、広い牧場でガンマンが銃撃戦をしているなんてのは……ですから、Ok コラルの決闘とも言われます。

西部劇で言う保安官はシェリフと呼ばれ、地域の治安職で住民の選挙で選ばれるのですが、凶悪犯罪の前科者や流れ者のガンマンなども少なくなく、悪徳の限りを尽くすこともあったようです。もちろん正義感の強いヒーローもいたと思います。

カウボーイといえば、テンガロンハットに投げ縄、暴れ馬を乗りこなし……というイメージですが、単純に牧童ではなく、馬や牛、土地まで奪う泥棒であることさえあったようです。このカウボーイが用心棒のガンマンを連れて町に来たものなら、住民は泣き寝入りするしかなかったのですね。

そういう開拓時代をドンパチよろしくカッコよく描いたのが、西部劇という訳。いわゆるアメリカの時代劇です。ガンマン VS カウボーイもあれば、騎兵隊 VS インディアンという場合もあります。

映画の OK 牧場の決闘はカーク・ダグラスと バート・ランカスターが出演し 1957 年に封切られました。映画音楽も聞いた事がありました～。O. K. Corral, O. K. Corral～♪西部劇の音楽と言えば、黄色いリボンが運動会でよく使われていたと思うし、「荒野の決闘」のいとしのクレメンタインや「駅馬車」「シェーン」の遥かなる山の呼び声「荒野の七人」など、どこで聞いたか分からないけど、聞いたことあるある、なんだか懐かしいと感じるのは、なぜ？

また、西部劇の俳優と言えば、まず「シェーン カンバック」のジョン・ウェイン！また「う～んマンダム」のチャールズ・ブロンソン、「荒野の七人」のユル・ブリンナーとスティーブ・マックイーン、マキシムコーヒーのカーク・ダグラスとか。

西部劇なんて見た覚えがないと思っていたけれど、日本では 1960 年～70 年代に TV 番組の主力だったというから、父親とかが好きで見ていたのだろうか？見たはずがないと言いながら、なぜか分かるし、懐かしいってどういうことだろう。多分、一世を風靡した西部劇は、音楽にしろ俳優にしろ親しまれ愛され、広く知られていたということなのですね。

10月27日 テディーベアの日

テディーベアとは、アメリカ第 26 代の大統領セオドア・ルーズベルト（1858 年 10 月 27 日～1919 年 1 月 6 日）の通称

「テディ」にちなんだ、くまのぬいぐるみのことです。ルーズベルトの誕生日である10月27日がテディベアの日になりました。

イギリスのテディベアコレクターの間で始められ、世界中で「心の支えを必要とする人たちにテディベアがおくられます。日本では日本テディベア協会が1997年から実施しています。

ところで、ルーズベルトとクマを結ぶ付けるエピソードは2つの話が伝わっています。

ひとつは1902年のこと、狩りに出かけたルーズベルトは獲物を仕留めることが出来ず、同行のハンターが大統領のために小熊を追い詰め、最後の一撃を大統領に頼んだところ、大統領は、「傷ついた小熊を撃つことはスポーツマン精神に反する」と言って打たなかったと言うもの。

そして、もうひとつは、犬が追い詰めたのが年老いたクマで、ガイドはクマを木につないで、とどめの一発を促しましたが、大統領は「スポーツのためにこのような老いたクマを撃ったりはしないが、このクマは傷つき苦しんでいる」と言って、安楽死を命じたというもの。

どちらにしても、ルーズベルトがスポーツマン精神を重んじることを称える新聞記事がきっかけで、クマのぬいぐるみが作られたとされています。その上、このクマのぬいぐるみを作ったのもニューヨークの飲み屋を営んでいた夫婦であったとか、雑貨屋であったとかいくつかの説があるようです。(後におもちゃメーカーになった)

しかし、テディベアの元祖を名乗っているのはドイツのシュタイフ社で、1902年創始者のマルガレーテが甥の提案からクマのぬいぐるみを作って製品にしたのが最初だと言っています。翌年、このぬいぐるみをライプツヒの見本市に出展しましたが、値段も高く、毛むくじゃらであったことから全く人気がありませんでした。しかしアメリカのバイヤーによって3000体も注文があり、次第に売れるようになったようです。

その後、ルーズベルト大統領の晩餐会のテーブルディスプレイにも使われ、「テディーベア」と呼ばれ大ブームになりました。

そもそも、セオドア・ルーズベルトは大の日本虜、日露戦争後、日露の講和に尽力した人物です。その功績により1906年ノーベル平和賞を受賞しています。柔道を習い黒帯取得者だったとか、東郷平八郎が読み上げた「聯合艦隊解散之辞」に感銘を受け、その英訳文を軍の将兵に配布したとか、忠臣蔵の英語訳本を愛読していたとの逸話があります。

クマのように勇敢でありながら、自然愛好家、保護主義者として知られ、正義感が強く、心根の優しい大統領であったゆえに、クマのぬいぐるみのように愛されたのかもしれませんが。セオドア・ルーズベルトは、歴代の大統領の中でも人気の高い大統領なのです。

10月28日 1956年二代目通天閣が開業しました。1886年ニューヨークの自由の女神が除幕式をしました。

ほとんど、共通点はなさそうな二つの建造物ですが、無理やり比較してみましょう。

所在地、通天閣:大阪市浪速区 新世界界限 自由の女神:アメリカ合衆国のニューヨーク港内、リバティ島

高さ、通天閣:103.3メートル(避雷針含む) 自由の女神:台座も含めて93メートル(305.1フィート)

構造、通天閣:本体:鉄骨鉄筋コンクリート造り 自由の女神:銅製(内部は鉄骨)

設計者、通天閣:内藤多仲 自由の女神:フレデリク・バルトルディ

モデル、通天閣:初代はエッフェル塔と凱旋門を模しました。自由の女神:ドラクロワの絵『民衆を導く自由の女神』と設計者自身の母親

由来、通天閣:「天に通じる高い建物」という意味で、命名したのは明治初期の儒学者、藤沢南岳(初代は1903年建造) 自由の女神:アメリカ合衆国の独立100周年を記念して、独立運動を支援したフランス人の募金による贈呈(由来になってないかな?)

今年で、通天閣:56歳 自由の女神:126歳

入場料、通天閣:大人600円 小学生300円 自由の女神:12ドル 小人5ドル(フェリーチケット)

ただし自由の女神の内部に入るのは、予約など制限いろいろあり

金との関わり、通天閣:5階展望台が金色に全面改装、自由の女神:掲げている松明は純金製 三代目ビリケンさんの胎内仏として金箔のビリケンさんが納められます。(今日から11月4日まで公開)

突起物の数、通天閣:4つ(旗やこいのぼりをつるす) 自由の女神:7つ(世界の7つの海を象徴)

ネオン、通天閣:広告サインと天気予報 自由の女神:昔は灯台だった

登録、通天閣:国の登録有形文化財 自由の女神:ユネスコの世界遺産(文化遺産)

足元にあるのは、通天閣:スタジオ210(土日にステージイベント) 自由の女神:エリス島移民博物館

営業時間、通天閣:通常 9:00~21:00(年中無休) 自由の女神:9:30~15:15(フェリーの時間に制限あり年中無休)

映画出演、通天閣:『大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン』『ガメラ対大魔獣ジャイガー』他 自由の女神:『猿の惑星』『インデペンデンス・デイ』『ゴジラ FINAL WARS』他

災害、通天閣:初代は1943年火災により強度が不足し、戦時中のため金属供出で解体 自由の女神:ブラック・トム大爆発

博覧会との関わり、通天閣:1903年(明治36年)に開催された第5回内国勧業博覧会の会場跡地に建設 自由の女神:1878年パリ万博に完成頭部を展示し約40万ドル相当の寄付金を集めた。

ちょっとこじつけのところもありますが、比較できるというのは似ているという事になるのかも?

自由の女神像は、英語では Statue of Liberty 正式名称は Liberty Enlightening the World(世界を照らす自由)です。

10月29日 1969年厚生省が発癌性の疑いがあるとして人工甘味料チクロの使用を禁止しました。

チクロとは、なんだか懐かしい言葉です。

若い方はご存じないと思いますが、おっちゃんの世代は、ちょうど自分らでおやつを買い食いし始めた頃に、「チクロ」の騒ぎがありました。

友人のお母さんに栄養士がいて、おやつを買うときには「全糖」と表示があるのを買うようにと教えられました。駄菓子屋で、安くて美味しいと思っていたお菓子にはチクロという甘味料が使っていることが多かったようです。

食べると舌が赤くなったり青くなったりするほど、どぎつい着色料が使っているお菓子も珍しくなかった気がします。当時は、食品添加物や公害問題などにだんだん感心が高まっていく時代だったのです。

チクロは日本では禁止されていますが、中国やヨーロッパの一部では使われていますので、気にされる方は中国製のお菓子など口になさらないほうがいいのかも…チクロの発がん性に関しては、否定的な研究者もあり、本当のところは分からないのかもしれませんが。

しかし、考えてみれば駄菓子屋では、お菓子は広口ビンやガラスケースに入れられていて、全糖の表示どころか、今のように入袋さへなかった時代ですから、チクロ以前の衛生的な問題があったかもしれません。遠足の前には、「おやつは〇〇円まで」とか決められて、友達と買いに行ったのを思い出します。

駄菓子屋の歴史を調べてみれば、江戸時代の飴売りなども駄菓子屋になるようで、飴売りがかざぐるまなどの玩具も一緒に売っていたのが始まりのようです。

明治・大正期の文学作品などにも登場し、特に戦後、大いに数を増やしたようです。駄菓子屋そのものは、少子化やスーパーマーケットなどの影響で減少の一途ですが、駄菓子と言われるものは今でも良く見かけます。

「子供だましたな」と思いながらも、なんだか懐かしくて、ほっこりしてしまうのは、おっちゃんだけではないと思います。が……。

10月30日 1938年本物のニュースと勘違いされ、アメリカ中が大パニックに陥ったと言われるオーソン・ウェルズ演出のラジオドラマ『宇宙戦争』が放送されました。

ハロウィンを翌日に控えた、日曜日の夜8時

「CBSネットワークが今夜、みなさまにお送りするのは、オーソン・ウェルズとマーキュリー劇場によるラジオドラマ、H・G・ウェルズの《宇宙戦争》です」と静かに、その番組は始まりました。

オーソン・ウェルズと共同制作者のジョン・ハウスマンによって、主宰されるマーキュリー劇場は、CBS ラジオで毎週小説や演劇を斬新な形式の短編ドラマ番組を放送していましたが、聴取率の低い不人気な番組でした。

ちょっと、ややこしいのは演出、出演したのがオーソン・ウェルズで、このラジオ劇の原作がH・G・ウェルズと言うところですが……

オーソン・ウェルズの内레이션ンによって番組始まり、次にさりげなく天気予報が挿入されます。そして、次にはオーケストラの演奏が流れます。

最初のナレーションは一体どうしたの？と普通なら思えそうですが、この番組の裏番組は当時の3人に1人が聞くほどの人気番組でしたので、この番組を真剣に聞いている人は、ほとんどいなかったようです。

オーケストラの演奏は突然中断し

臨時ニュースを申し上げます。ただいま当CBSネットワークに速報が入りました。……

となるわけです。

マーキュリー劇場の聴取率が、上がらないことに一計を案じたオーソン・ウェルズは、火星人の襲来を実況報告風に仕上げた番組に演出することを思いついたという訳です。

多分、このあたりでもまだ番組を真剣に聞いていた人は少なかったようです。が、実際に実況風になった頃、人気の裏番組の狭間にチャンネルを変えた人々が、ラジオ劇を事実と勘違いしてパニックになったというのです。

しかし、本当にパニックになったかどうかは、分からないといわれています。全国の警察に問い合わせの電話がひっきりなしにかかってきたことは事実ですが、それ以上の行動を起こした人がいたという証拠はないといわれています。

翌日の新聞には一連の騒ぎを新聞が取り上げ、CBS が謝罪し損害賠償問題訴訟が起こりますが、CBS は無罪になっています。新聞が、新興メディアであるラジオに対して警戒心を持っていたことで、殊更にバッシングしたという見方が有力なのだそうです。しかし、オーソン・ウェルズの巧みな演出は話題になり、彼の名声は一気に上がったと言います。

9.11 の事故が起きた時あまりにも驚愕の映像に「何の映画が始まったのか？」と思った方もいらっしゃるのではないかと思います。そのとき、このオーソン・ウェルズのラジオ劇のことが、ふと頭をよぎったのでした。

しかし9.11 は、悲しいかな、実際に起こったことでした。

あれがドラマだったら、どんなによかったことでしょう……。

10月31日 1922年ノロドム・シハヌークが生まれました。

カンボジアの国王でもあり政治家でもあり、先日 10 月 15 日に 89 歳で亡くなりました。

フランスの植民地であったカンボジアは 1949 年に独立を果たし 1953 年に「カンボジア王国」が発足しました。プノンペンの王宮に凱旋したシハヌークは「独立の父」として広く国民の尊敬を集めました。

その後王位を退き、首相と外務大臣に就任しました。

ところが、ベトナム戦争がカンボジアにも飛び火し、シハヌークはアメリカによって追放されたと言われています。このとき、アメリカ軍に支援された、ロン・ノル政権が誕生しました。

一時、中国に亡命していたシハヌークは、ポルポトに協力してロン・ノルから政権を奪回することに成功しましたが、実権はポルポトにあり、カンボジアにおける「文化大革命」ともいえる弾圧の政治が始まりました。

ポルポト政権下で、1979 年までの 3 年 8 ヶ月あまりで旱魃、飢餓、虐殺などで 100 万～200 万人以上とも言われる死者が出たと言われています。1979 年にベトナム軍が侵攻しポルポト政権は倒れました。

ヘン・サムリンによる「カンプチア人民共和国」いわゆる内戦の時代を経て、1993 年、再びシハヌークが国王に即位し、選挙が行われ新憲法が発布され、制憲議会が発足しました。

カンボジアと言えば、思い浮かべることは何でしょうか？

アンコール・ワット？ それとも、地雷？ ポルポト政権？

ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されているアンコール・ワットは、クメール朝（9～14 世紀）時代の傑作で、東南アジアに大きな影響を与えたことを今に伝えています。

一方、地雷と言えば 1960 年代にベトナム戦争が激化し始めた頃、アメリカ軍特殊部隊によって埋められたのが最初だとされ、その後 1979 年にベトナム軍が侵攻して以来、10 年に及ぶ内戦時代に数百万個の地雷が埋められたと言われています。そして、今でも地雷による被害はなくなっていません。

美しいアンコール・ワットと恐ろしい地雷原、そして今でも最貧国のひとつと言われるカンボジア。最近の発展はめまぐるしいと聞きますが、みんなが安心して暮せるには、まだ時間がかかりそうです。